MJOT会報

はじめまして。このたび国際交流基金ブダペスト日本文化センター所長として、4月29日に着任いたしました岩永絵美（いわなが　えみ）と申します。着任のご挨拶文の依頼をいただいてから何を書こうかとあれこれ悩み考えたのですが、ハンガリー日本語教師会（MJOT）の皆様のお顔がおひとりずつ、私が対峙しているパソコンの画面の向こうに見えているかのように想像してご挨拶申し上げることにしました。

新緑の美しいブダペストに赴任して早一ヶ月が経とうとしていますが、この街のゆったりと流れる時間の中で、耳になじみ薄いけれど柔らかな音声のマジャール語をたくさん浴びながら、国際交流という仕事に取り組んでいくやり甲斐を感じています。特に日本語教育に携わることについては、当センターで運営している日本語講座に熱心に通って来られる人々の表情を見るだけでも嬉しくなってしまいます。これはきっと、この国で日本語を教えていらっしゃる先生方のお蔭ではないかと感謝しております。

先日、日本から見えたお客様が、日本語を教えているブダペスト郊外の学校の授業参観をされ、その後に「自分は日本人に生まれてよかった。なぜならば日本語ほど難しい言葉を外国人として学ばなくても良かったからだ。」とにこやかに感想をお話しになっていました。私も母国語でない言葉を大きくなってから学ぶことは、さぞや大変なことだろうと思っています。それなのに何故、この学校の高校生たちは日本語を学ぶことを選んだのか。「日本のポップカルチャーが、特にアニメやマンガが好きだから。」、「語学として面白いと思ったから。」と、彼らの回答は若者らしく明快でした。

ハンガリーに赴任する前の私の駐在経験としては、国際交流基金のニューヨーク事務所（日米センター）での仕事があります。教育アウトリーチや市民交流を担当していました。多様な価値観が存在するアメリカで、初等中等教育レベルの先生方がさまざまな工夫を凝らしてカリキュラムの中にアジアを、ひいては日本を取り入れようと日々ご努力をされていました。私は、グラント（助成金）という形で支援をすることが多くありましたが、その他、ネットワークづくり等のご相談にのることも度々ございました。

早いもので、来年（2011年）にブダペスト日本文化センターは、設立20周年を迎えます。昨年度は、「日本・ドナウ交流年2009」として、洪日両国にとって外交関係開設140周年及び外交関係再開50周年という重要な節目を迎え、MJOTをはじめ多くの方々のお力添えがあって沢山の行事が成功裏のうちに執り行われました。今年度は、新しい日本語能力試験が始まりますし、日本・ハンガリー協力フォーラムの支援を賜りながら、各種事業が充実していくよう努力して参りたいと思っています。絶え間ないドナウ河の流れのように、私をはじめ当センタースタッフ一同は、ハンガリーと中東欧地域の日本語教育の益々の発展と深化を願ってやまず、引き続き皆様と共に歩んで参りたいと存じます。（了）

離任のご挨拶

在ハンガリー日本大使館
広報文化班・経済班
二等書記官　篠澤　康夫

在ハンガリー日本大使館の篠澤です。この度、ハンガリーでの任期を終え、日本（総務省）へ戻ることとなりました。MJOT 会員の皆様には公私を問わず大変お世話になり、この場をお借りして、心よりお礼申し上げます。

2007 年 5 月に着任してから早 3 年が過ぎてしまいました。その間、辛かったことも楽しかったこともたくさんあり、日本の日常生活では得ることのできない経験を積むことができました。特に、2009 年の周年事業による過労（？）で入院・手術する羽目になり、ハンガリーの病院の恐ろしさをたっぷりと味わったのは忘れがたい思い出です。その時にお見舞に来てくださった K さんが天使に見えたのは錯覚ではありません。

今では頭の先から足の爪まですっかりハンガリー色に染まっていますが、4 年前の上司から、新たな赴任先として「ハンガリー」、「広報文化班」という聞き慣れない言葉を連続して告げられ、「ハンガリー？広報？文化？いったいどこで何をするんだ？」と頭の中は疑問符だらけだったのもつい昨日のようです。場所は世界地図で確認し、オーストリアやクロアチアの隣で、ブダペストは『ドナウ川の真珠』と呼ばれる美しい街であることが分かり、心躍る思いでしたが、職務内容については不安で仕方がありませんでした。というのも、元々は総務省で情報通信行政に従事してきた身ですので、「日本語教育推進の支援」、「国費留学生の募集・選考」、「文化・広報外交政策」といった業務には全く馴染みがなく、具体的には何も想像できませんでした。

ですが、赴任後にいざ参加した「日本語スピーチコンテスト」の打ち合わせでは佐藤実行委員長（当時）の教育にかける情熱に圧倒され、本番での学生達の熱意と努力に感動し、すっかりこの仕事が好きになりました。また 2007 年 11 月の「日本ハンガリー協力フォーラム」の場では、若井 MJOT 会長（当時）による熱弁を受け、委員の方々とともにハンガリーにおける日本語教育への支援の意義を改めて感じることができました。そのような原体験をベースとし、私なりにできることを模索しながら、3 年間勤務してきたつもりです。ハンガリー滞在時のほとんどは経済不況の時期で、特に日本語教育を含めた言語教育への資金が先細りしていく状況の中、JOCV までもが 2007 年末で卒業しました。一方で、フォーラム事業が効果を発揮し始め、日本語学習者数は 1400 人から 1800 人にまで増加、日本文化発信プログラム（J-CAT）の派遣の開始、MJOT への国際交流基金さくら中核事業、フォーラム事業や商工会からの経費支援ルートができるなど、状況の好転も見られつつあります。

今、ハンガリーは日本語教育が盛んになり始めた1990年代前半に日本語を学んだ学生達が教師として母校へ戻るなどの好循環も出始め、新たな段階へと移りつつあります。一方でハンガリーの教育制度は毎日のようにめまぐるしく変化し、今日当たり前の事が明日はそうでないというのも珍しくはありません。このような状況下、政府からの支援のあり方など、私達は多くの課題を抱えていますが、引き続き MJOT、国際交流基金、大使館という３者がしっかりと協力し合うことが大切だと思っています。後任の白壁が５月末に着任していますので、今後ともご指導のほどよろしくお願いします。

色々とやり残したことも多く、心優しいハンガリーの方々と離れるのは寂しい限りですが、ハンガリーの美しい情景，経験や皆様からいただいた優しさを糧に，日本では家族を大事にしつつ、仕事に励みたいと思います。最後になりますが、皆様の益々のご健康とご活躍を東京から祈念しております。また、東京に寄られることがありましたら y.shinozawa@gmail.com までお声かけください。本当にありがとうございました。

「思い出の一枚」

―2009年日本語スピーチコンテスト―

― カーロリ・ガーシュパール大学日本学科 ―

若井　誠二

カーロリ・ガーシュパール大学は 1994 年に準備（日本語集中）コースがスタートし、1995 年に日本学科を開設しました。現在も旧課程（5 年制）の学生も在籍はしていますが、新学士課程（3 年制）と同修士課程（2 年制）の学生に向けた日本語教育が行われています。

もともとカーロリ大学日本学科は日本語試験（筆記・面接）を入試科目の 1 つとして設置していました。そして日本語能力が入学試験合格レベルに達していない者に対しては、日本語を集中して勉強する入学準備コースを設置していました。しかし、高等教育改革により現在は入学の条件に日本語能力が課せられなくなりました。このため入学準備コースは現在上級エーレッチェーギ対策講座として運営されています。また副専攻制度も始まったため、現在日本学科には日本語ができる主専攻の学生だけではなく、日本語学習経験のない学生や副専攻の学生も数多くおり、学科はこの対応に追われています。

日本学科の場合、どこまでを日本語教育、どこからが専門教育とするかについては線引きが難しいところもありますが、現代日本語教育としては現在以下の授業が開設されています。(新学士課程主専攻の授業のみ記します。実際にはここに修士課程、副専攻、エーレッチェーギ対策講座の授業が入ってきます。)

学年	科目名	時
学士 1	文法（未修者用）	6
	文法（既修者用）	2
	会話（オープン）	2
	日本語の正しさ（既修者用）	2
学士 2	文法	2
	会話（オープン）	2
	日本語の正しさ（既修者用）	2
学士 3	会話	2
	読解	2

この他にも、言語学の授業や翻訳の授業が開設され、修士課程でも文法、翻訳、日本語論文読解、日本語研究発表、日本語論文執筆、敬語などの授業が行われています。（翻訳の授業の 1 つでは、インターネット上にアップロードされているハンガリージョークの動画を日本語に翻訳し、字幕をつけて日本人の方に見ていただくという活動を行いました。）

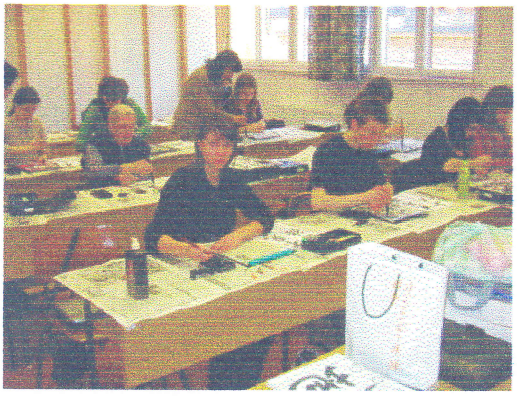
未修者の日本語文法クラスでは「げんき」を使用しています。文法のクラスですが、まだ日本に行ったことのない学生が多いので映像を使って日本の文化や地域の紹介などもしています。会話の授業では 1 年生では 3 分間スピーチを授業に取り入れ、2 年生では調査発表やインタビューの仕方、あるいはアンケートの作り方も学びます。そして 3 年生では毎週日本人ゲストを招き談話コントロールについても学んでいます。日本語の正しさの授業では、特にコミュニケーションの立場から「どうすれば相手に自分の言いたいこと、書きたいことが正しく伝わるか」という点を重視し、ハンガリーに住む日本人の方に向けた資料作り(ハンガリー紹介、ガイドブック、論文)を行っています。

読解の授業では、NHK ニュースのスクリプトを題材にし、映像も利用しながら内容理解を深めています。

なお、学士課程は筆記（漢字・語彙・文法・聴解・作文）、口頭（翻訳・会話）からなる日本語進級試験、そして口頭試験（研究内容に関する日本語口頭試問）に合格しなければ卒業できません。

カーロリ大学日本学科には日本語教師養成講座もあります。このクラスでは、日本語教授に関する知識や技術を学ぶだけではなく、上級エーレッチェーギ対策講座や未修者の文法授業のための補助教材（「みんなの日本語」「げんき」のハンガリー語による文法説明書）作成や、日本語教育を行っている初等教育・中等教育機関などでの日本文化紹介も行っています。

KRE 日本学科では課外活動も行われています。これらの活動には多くの日本人の方のサポートをいただいています。　月曜日の書道では、昨年の夏に引き続き、今年の夏もメンバーの作品が日本で展示されます。



金曜日には小原流生け花クラブが開かれています。

今年度後期からは同じ金曜日に日本語手話クラブもスタートしました。４月末には日本からお客様をお招きしみんなで手話会話を楽しみました。

また日本学科の課外活動ではありませんが火曜日に会話クラブも行われています。

これらの活動はすべて外部にも開放されています。みなさまのご参加もお待ちしております。

― 国際日本語合宿で得たもの、ポーランド ―

ニィーレギハーザ大学　吉澤　幸代

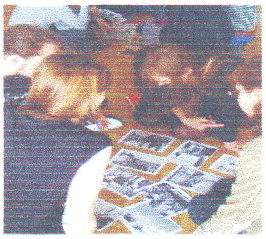
ハンガリーより少々ゆっくり春が訪れるポーランドの古都クラクフに新緑の優しい緑があふれる５月の第一週、昨年同様、六日間にわたる国際日本語合宿が開催されました。クラクフで行われた一日半の講義とワークショップ、ザコパネにほど近いムルザシフレでの日本語授業、そして、交流とハイキング、キャンプファイヤー等、今年も多彩なプログラムでとても楽しく有意義な日々を過ごしてきました。今回の合宿の開催時期がハンガリーの学期末で、何かと落ち着かない時期ではあったものの、お誘いを頂いた時、直ぐに昨年の楽しい思い出が脳裏に蘇り、ほぼ即答で参加させていただけるようお願いしました。昨年は自主参加のオブザーバーでしたが、今年は全プログラムに参加できるよう調整し、また、一年生、二年生の日本語授業も担当することになりました。

今年の合宿はクラクフのヤギェロン大学の学生が中心になり企画したそうです。スタッフとして頑張っていたのは、三年生二人、二年生一人の三人（サークル・かっぱ）を中心に、手伝いの一年生多数でした。ポーランドから、ヤギェロン大学の他に、ポズナンのアダム・ミツキエヴィッチ大学、そして、トルンのコペルニクス大学から学生、先生が参加しました。また、スロヴァキア、ブラティスラヴァのコメンスキー大学、チェコ、プラハのカレル大学、そして、ドイツのボッフム大学から参加があり、ワルシャワからの先生や、スロヴェニアからの先生など、ハンガリーからの私を含め、総勢１５０名以上の国際色豊かな大合宿となりました。

初日の講義とワークショップは、クラクフのマンガセンターで行われました。マンガセンターのコレクションの母体となっている「ヤシンスキーコレクション」についての講演に続き、ポストモダン日本文学におけるブラックロマンティシズムについて、また、辞書研究を基軸にした日本学へのユニークなアプローチについてのとても面白い講義を受けることができました。午後のワークショップでは、マンガセンターのコレクションである漆器や明治期の版画の展示と説明、華道、はんこ作り、立派な茶室でのお茶のお手前などをワークショップとして体験することができました。翌日ムルザシフレへの出発までの時間は、ドクターコースに在籍する研究者の発表とワークショップとなり、この日はマンガセンターの能面コレクションや書道、草月流の生け花を体験することができました。学生達は大変積極的にワークショップに参加していましたし、私も外国語習得の過程における文化体験の有用性を改めて実感することができました。

ムルザシフレはクラクフからバスで２時間少々の山間の静かなリゾート地です。学年毎に午前と午後、それぞれ９０分の日本語レッスンが二日間行われました。普段の授業では出来ないことを、また、合宿で学んだことを強く印象に残したいというコンセプトで、準備の段階から他の先生方と教案をつめてきましたので、授業ではそれぞれ担当になった先生方の個性豊かな、工夫がこらされた楽しい授業を見ることができました。私はせっかくの国際合宿なのだから、ぜひインターカルチュアルコミュニケーションを取り入れた授業をしたいと思い、最初となった二年生とのセッションでは「？」アイテム（何に使う道具か判らないもの）を使ったグループディスカッションと「物語しりとり」（物語の最初の一文を与えて、それ

に続けて一人一人が文を加え、一つの物語を作るグループワーク）をしました。他の大学からの学生達と打ち解け、仲良くなるいいアイスブレーキングになったと思います。二日目の一年生とのセッションはワインのバイヤーとして、他のグループのメンバーに自分たちのワインの売り込みをするというプレゼンテーションの授業になりました。最後に自分が買いたいワインを投票をして、ベストセールスパーソンを選び、終了しました。すばらしいキャッチを考えだしたグループがあったり、今ならおいしいチーズもサービスします、という販促をつけるグループがあったり、学生達の日本語能力の高さもさることながら、そのユニークな発想に感心させられました。



午前と午後の日本語授業の間には二日間とも２コマ、六つから八つの講義が用意されていて、とても内容の濃いスケジュールでした。が、それは若い大学生たちのこと、ムルザシフレ到着から連夜続く「飲みニケーション」のためか、全講義に出席するような学生はいなかったように見受けます。私も幾つかの講義に参加しました。特にドイツ、ボッフム大学の中等学校の教科書作りへの取り組みに関する発表はとても興味深く、ボッフムの先生方ともすっかり意気投合し、非常に有意義な時間になりました。また、夕食後の時間は全体でのイヴェントがあり、参加大学それぞれの学生達によるプロモーションヴィデオや劇などのプレゼンテーションが行われ、一緒にとても楽しい時間を共有することが出来ました。ここでも、オーガナイザーの３人の学生はとても良く働いていましたし、忙しいからといって、さぼることもなく、昼間はちゃんと自分たちの授業に出ていました。本当にボランティア精神と向学心のある爽やかで、すばらしい学生達でした。ただ、食事をする暇もない様子だったので、倒れないかしらと少々心配しました。

最終日は３コースに分かれてハイキングに行きました。もちろん、私は一番初心者コースに参加しましたが、雄大なタトラの景色と道々の学生達や先生方とのおしゃべりで、本当に忘れ難い、良い小旅行になりました。授業のあった二日間は雨が多いあいにくの天気だったのですが、最終日のハイキングは幸い天候に恵まれました。途中、スコールのような雨がありましたが、昼食のために山小屋にいる前後でしたので、ちょうど良かったと思います。心地良い疲れと共に宿舎に戻り、夕食後はキャンプファイヤーとなりました。合宿が終わった開放感からか、または達成感からか、学生達の間では様々な種類のお酒が飲み交わされ、大変な盛り上がりでした。キャンプファイヤーを囲んで、みんなで季節外れの盆踊りを踊ったり、私も合宿の打上げを楽しませてもらいました。よく飲み、よく食べた六日間でした。

この六日間の合宿の日々を通して、学生だけではなく、教師として、私も互いに切磋琢磨することの大切さを改めて知った気がします。ポーランドや他の国で活躍される先生方の体験や意見を伺えたことは、私にとって大きな収穫となりました。そして、このすばらしい国際日本語合宿が毎年のイヴェントになることを願ってやみません。けれど、きっとそれは心配に及ばないのではないかと思います。今年の合宿の企画はクラクフの学生達でしたが、来

年の合宿の企画に既にポズナン、トルンの両大学が手を挙げているそうです。学んでいる大学の違い、国の違いをぴょんと軽く飛び越え、日本語という言葉を道具にして、みんなが心から楽しんで学び、共に過ごすことのできた国際日本語合宿に、またいつの日か参加させていただけることを心待ちにしています。そして、次の合宿にはぜひ、ハンガリーからも学生が参加してくれることを願っています。

運営委員会より

会長：佐藤紀子先生(Bp.商科大)が国際交流基金日本研究フェローシップで通訳論の研究のため、5月24日より10月2日まで日本に滞在です。この間、会長不在となりますので、Kiss Sándorné Ikona が会長代理を務めます。どうぞ宜しくお願いします。

運営委員会副会長：キッシュ

スピコン実行委員会より

去る5月28日(金)に第二回スピコン実行委員会が開催されました。**第18回日本語スピーチコンテストは2011年3月19日(土)に開催**の予定です。会場は未定。実行委員会メンバーは以下の通りです。(五十音順、敬称略)

MJOT 中心メンバー：内川・小野・セメレイ

大使館：白壁(篠澤後任)

基金：福島(8月半ばから後任に交代)

MJOT 会員：松浦・リツィシャーク・若井

※コンテスト運営費の支援スポンサーを募集中。支援協力いただけそうなお知り合いをご存知の MJOT 会員はご連絡ください。

Supikon.hu@gmail.com または

Kazumi812@gmail.com　　実行委員長：内川

キャンプ実行委員会より

去る5月14日(金)に第三回日本語キャンプ実行委員会が行われました。5月12日(水)にキャンプ参加申し込みが締め切られ、現在の参加希望者は40名です。今回はハンガリー周辺の教師会にもキャンプ実施の案内を送ったところ、クロアチアやイタリアからも申し込みがありました。また、ハンガリー人参加希望者では Bp.だけでなく Debrecen や Szeged などの地方からの参加者が目立ちます。

5月25日(火)にはキャンプで日本語教育に携わってくださる日本語講師の打ち合わせもあり、講師の皆さんはキャンプ期間中に使用するテキスト作りに入りました。

6月11日(金)はキャンプ参加費の納入日です。この日に実際にキャンプに参加する人数が確定します。

第二回日本語キャンプ(7月12日～16日)まで一ヶ月ちょっととなりました。会員の方でキャンプに興味がある方は是非見学におこし下さい。　　日本語キャンプ実行委員会

その他

・MJOT 会費未納の方は銀行振り込みによる納入、または直接会計にお渡し下さい。

銀行：**AXA Kereskedelmi Bank Zrt.**

1138 Bp. Váci út 135-139

IBAN HU35 17000019 11561860 00000000

口座名：MJOT

・会報 19 号は8月に発行を予定しています。会員皆様のお声をお待ちしています！

MJOT 会報18号
発行：2010年6月
発行人：ハンガリー日本語教師会
編集：後藤史与